United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization

UNESCO Associated Schools

平成２８年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成２８年４月～平成２９年３月

１．学校概要

学校名　北海道札幌平岸高等学校

種　別　☐保育園・幼稚園　☐小学校　☐小中一貫教育
☐中学校　☐中高一貫教育　☑高等学校
☐教員養成　☐技術/職業教育
☐特別支援学校　☐その他（　　）

所在地　〒062-0935
札幌市豊平区平岸５条１８丁目１－２

E-mail　hiragishi-h@sapporo-c.ed.jp

Website　http://www.hiragishi-h.sapporo-c.ed.jp

児童生徒数　男子　372 名　女子　564 名　合計　936 名
児童・生徒の年齢 16 歳～18 歳

２．実施活動（複数選択可）

☐　地球規模の問題に対する国連システムの理解
☑　国際理解
☑　世界遺産
☐　平和・人権
☑　環境
☐　気候変動
☐　生物多様性
☐　エネルギー
☐　防災
☑　食育
☑　伝統文化
☑　そのほか（　スポーツ国際大会　、特別支援教育　）

３．活動内容

（１）１年間の主な活動内容について記載願います。

● 札幌市立高等学校ポートランド市派遣交流報告会

● ポートランド・グラント高校生夏季研修受入

● 日韓ワークキャンプ韓国高校生来校・交流

● 札幌ユネスコ協会「私のまちのたからもの絵画・パネル展」へパネル作成提供

● アジア・オセアニア国際アンチドーピングセミナーでのプレゼンテーション

● JADA・札幌PLAYTRUE・WEEKでのPLAYTRUE宣言参加

● 冬季アジア大会選手村にアンチドーピングプレゼンパネル展示

● 札幌市円山動物園と連携し、札幌市電子図書館のデジタル絵本の制作

● 円山動物園のデジタル絵本を西岡小学校で読み聞かせ

● 市立札幌みなみの杜高等支援学校校章デザイン作成

● 日本ユネスコ協会連盟世界寺子屋プロジェクト・リーフレットコンテストへの参加

● ESDアシストプロジェクト助成金により「さっぽろ雪まつりユネスコ寺子屋プロジェクト（第68回さっぽろ雪まつりの大通会場の冬季アジア札幌大会の雪像を生徒たちが授業で制作、会期中雪像前で日本ユネスコ協会連盟寺子屋募金活動を実施）

● 第44回北海道高等学校ユネスコ研究大会へ本校留学生が参加

（２）活動時間について（下記から選択して下さい。）

☑ 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
☑ 時間外活動の時間を使用
☐ ユネスコクラブの活動として実施
☐ その他（　　）

2017年（平成29年）1月30日（月曜日）

北海道新聞

新設校 親しまれる校章に

「新しい学校のシンボルとして、入学生や地域の人など多くの人に親しんでもらえれば」。今年4月に札幌市南区の旧真駒内小跡地に開校する市立特別支援学校「札幌みなみの杜高等支援学校」。校章をデザインした札幌平岸高3年の篠原鈴佳さん(18)はわくわくしている。

校章は「みなみの杜」「南区」「真駒内」のローマ字表記の頭文字「M」がモチーフ。字体に丸みと厚みを持たせ、知的障害のある生徒たちの学びやが「優しさやぬくもりにあふれている様子を表現した」。全体を彩る深い緑色は、地域に広がる豊かな自然を表している。

校章のデザインは、高等支援学校の開校準備室が昨年9月に札幌平岸高に依頼。1～3年生68人から72点が集まった。デザインアートコースで学ぶ篠原さんは「友人たちの方が上手で、採用される自信はなかった」と言うが、準備室の担当者は「作品の醸し出す柔らかさがピカイチだった」と振り返る。

高等支援学校は農園芸や製パン・製菓など7分野の「普通科職業コース」を開設。校章は色を青や赤に変えて、各コースのロゴマークとしても使われる予定で、校内に併設するカフェの皿やコップにもあしらわれる。

「在校生たちから『学校のイメージとぴったりだね』と言ってもらえたらうれしい」と話す篠原さん。将来はデザインに関わる仕事を夢見ており、美術大学への進学を目指して猛勉強の毎日だ。（平岡伸志）

道央ひと

北海道新聞　2017年（平成29年）1月27日（金曜日）

平岸高生が「エゾモン」像
冬季アジア大会PRへ

さっぽろ雪まつり

水で湿らせた雪で雪像の形を整える生徒たち＝26日

第68回さっぽろ雪まつりの大通会場（札幌市中央区）が開幕する2月6日を前に、札幌平岸高（豊平区）デザインアートコースの生徒が、大通西6丁目で冬季アジア札幌大会の公式マスコット「エゾモン」の中雪像作りに励んでいる。

同コースは2006年から毎年、授業の一環で取り組んでいる。2月19日に開幕する冬季アジア大会に向けドーピング根絶を呼びかけるグッズや動画を作った経緯があり、エゾモンの雪像を作ることに決めた。1、2年生の計49人が18日から作業を始め、火曜から金曜までは各2時間、土日も有志数人が6時間ほど続けている。

雪像は高さと奥行きが各5㍍、横8㍍の大きさ。雪像の原画を描いた1年の道又紗彩さん(16)は「キャラクターの位置を調整するのに十数回描き直した」。

26日の作業では、同コースの2年生9人が雪像の細かな調整を行った。青柳知子さん(17)は「みんなと相談しながら同じ物を作れるのが刺激的で楽しい」と笑顔を見せた。27日に完成させる。

生徒たちは2月8日に、雪像の前でエゾモンの着ぐるみと共に冬季アジア大会のパンフレット配るなどPRも行う。（山口真理絵）

平成２９年　２月１３日　【月曜日】　北海道通信

冬季アジア大会をPR
札幌平岸高デザインアートコース
1年生がさっぽろ雪まつりで

ユネスコ募金活動も

札幌平岸高校（林恵子校長）のデザインアートコース一年生四十人は七日と八日、「第六十八回さっぽろ雪まつり」大通西六丁目会場で、自分たちが手がけた中雪像を背にユネスコの募金活動および冬季アジア札幌大会のPRを行った。アンチ・ドーピングを訴える揃いの帽子を身に付け、道行く人々に募金への協力や大会の応援を呼びかけた。

同校では毎年、デザインアートコースにおける授業の一環として雪まつりの雪像制作を実施。また、二十七年からは、ユネスコの理念実現に向けて異文化や人権・民主主義に関する教育を実践する「ユネスコスクール」に加盟し、雪像の前でユネスコの募金活動も行ってきた。

今回は、「ようこそ札幌へ!二〇一七冬季アジア札幌」と題し、大会のマスコットキャラクター「エゾモン」や市の学校教育キャラクター「ちっきゅん」「ゆっぽろ」「おっほん」が冬季スポーツを楽しむデザインの雪像を制作。二年生九人とともに、一月中旬から二週間かけて完成させた。

生徒は七日から二日間、募金班と大会PR班に分かれて活動。スポーツの価値を発表する「アジア・オセアニア国際アンチ・ドーピングセミナー」の参加記念品としてもらった帽子をかぶり、「募金お願いします」などと呼びかけたほか、エゾモンとの写真撮影を促すなどしていた。

参加した生徒は、「雪像制作も募金も大変だったけれど、新しい体験ができて良かった」「募金にたくさんの人が協力してくれてうれしかった」と充実した表情をみせていた。

集めた募金は札幌ユネスコ協会を通じて日本ユネスコ協会連盟に寄付する。

笑顔で募金を呼びかける生徒（写真上）。1・2年生が協力して制作した雪像（写真下）

平成２８年１２月２６日　【月曜日】

デジタル絵本制作―札幌平岸高
物語通し環境問題啓発
3年生が西岡小で読み聞かせ

札幌平岸高校（林恵子校長）のデザインアートコース三年生十六人が十二日、札幌市立西岡小学校でデジタル絵本の読み聞かせを行った。三年生の児童を前に、札幌市円山動物園の動物と札幌らしい特色ある学校教育の環境キャラクター「ちっきゅん」が登場するオリジナル絵本など八冊を披露した。

同校は、二十七年度から札幌らしい特色ある学校教育推進事業「幼稚園・学校での図書館活用授業研究実践校」に指定され、研究を進めてきた。今回は、「ビジュアルデザイン」の授業を選択する三年生が四人一組になって環境問題と絡めたストーリーの絵本を約四ヵ月かけて制作。動物園で取材を行い、飼育員から何度も添削を受けながら、小学生でも理解を深められるような内容にすることを心がけた。

この日、生徒がiPadに取り込んだ絵本をテレビに投影して読み聞かせを行った。「ちっきゅんとオランウータンのハヤト」「アムールトラとちっきゅん」などと題した物語を通して、自然破壊が動物の生息環境を奪っていることや、日ごろから環境問題を意識して暮らす大切さに気づかせた。併せて、先輩が手がけた昔話や童話を題材とする絵本も発表した。

円山動物園の動物と市のキャラクターが登場する絵本を披露した

児童からは、「絵が上手」「読んでくれてありがとう」といった声が寄せられた。札幌平岸高の吉岡隆教諭は「生徒が小学生の前で読み聞かせることはあまりない。機会があれば、老人ホームでの実施も検討していきたい」と話していた。

なお、生徒が制作したデジタル絵本は札幌市電子図書館で貸し出しを行っている。

平成２８年１１月２９日　【火曜日】

札幌平岸高デザインアートコース
プレゼンの技術競い合う
テーマはアンチ・ドーピング

札幌平岸高校（林恵子校長）は十六日、同校で「アンチ・ドーピングを通して考える」と題して公開授業を行った。デザインアートコースの一年生四十人が、ドーピングのない世界を目指してアイデアをプレゼンテーションした。

同校では、第八回札幌アジア冬季競技大会組織委員会と日本アンチ・ドーピング機構（JADA）から「高校生に"スポーツの価値"を主体的に考えて発信してほしい」との呼びかけを受け、昨年度からアンチ・ドーピングにかかわる授業を実施。生徒が制作したアート作品が「2016アジア・オセアニア国際アンチ・ドーピングセミナー」で展示された。

これまでに生徒たちは、八グループに分かれてドーピングの予防・防止を呼びかけるにはどのような方法が有効かを議論。併せて、発表する制作物を検討してきた。

様々なアイデアを発表し合った

この日はJADAのスタッフも同席する中、グループごとにプレゼンテーションを実施。「2017冬季アジア札幌大会」の選手村にアンチ・ドーピングのメッセージを施したグッズを置いたり、有名ブランドや選手とコラボレーションして波及効果を高めたりするなど様々なアイデアを発表した。

紙芝居を活用することで小さいころからアンチ・ドーピングへの理解を深めてもらうことを考えたグループも。また、テレビCMを考案したグループでは、スライドを使って登場人物や具体的な構成を紹介した。

このあと、十二月に札幌で開催される国際セミナーで発表を行う四グループを選定。代表となったグループの山本ひかりさんは「アンチ・ドーピングの何が良いのかをいろいろな年代の人に分かってもらえれば」と話していた。

平成２８年１１月２９日　【火曜日】

札幌平岸高デザインアートコース
プレゼンの技術競い合う
テーマはアンチ・ドーピング

札幌平岸高校（林恵子校長）は十六日、同校で「アンチ・ドーピングを通して考える」と題して公開授業を行った。デザインアートコースの一年生四十人が、ドーピングのない世界を目指してアイデアをプレゼンテーションした。

同校では、第八回札幌アジア冬季競技大会組織委員会と日本アンチ・ドーピング機構（JADA）から「高校生に"スポーツの価値"を主体的に考えて発信してほしい」との呼びかけを受け、昨年度からアンチ・ドーピングにかかわる授業を実施。生徒が制作したアート作品が「2016アジア・オセアニア国際アンチ・ドーピングセミナー」で展示された。

これまでに生徒たちは、八グループに分かれてドーピングの予防・防止を呼びかけるにはどのような方法が有効かを議論。併せて、発表する制作物を検討してきた。

様々なアイデアを発表し合った

この日はJADAのスタッフも同席する中、グループごとにプレゼンテーションを実施。「2017冬季アジア札幌大会」の選手村にアンチ・ドーピングのメッセージを施したグッズを置いたり、有名ブランドや選手とコラボレーションして波及効果を高めたりするなど様々なアイデアを発表した。

紙芝居を活用することで小さいころからアンチ・ドーピングへの理解を深めてもらうことを考えたグループも。また、テレビCMを考案したグループでは、スライドを使って登場人物や具体的な構成を紹介した。

このあと、十二月に札幌で開催される国際セミナーで発表を行う四グループを選定。代表となったグループの山本ひかりさんは「アンチ・ドーピングの何が良いのかをいろいろな年代の人に分かってもらえれば」と話していた。